

# 英語5技能教育特別部会 (西日本エリア) 実施報告

国においては、グローバル化への対応の一環として、小・中・高等学校等を通じた抜本的な英語教育改革を推進しています。これを受け、大学入試の英語でも4技能の総合的な評価が拡大しており、各学校においてはこれらへの対応は喫緊の課題です。さらに、欧州評議会が作成した外国語学習者の言語能力を図る参照基準CEFRでは、学習者の自己評価においてコミュニケーションの形態を5技能に分類しています。

そこで当研究所では、私立学校の英語教育担当教員の指導力強化を図るため、5技能教育に係る特別研修事業を令和6年度に引き続き、西日本エリアと北日本エリアで実施致しました。

**会期** 令和7年5月8日(木)・9日(金)

**会場** 5月8日(木)：暁中学校・高等学校

〒512-8538 三重県四日市市萱生町238 (三岐鉄道「暁学園前」駅から徒歩約12分)

5月9日(金)：都ホテル 四日市

〒510-0075 三重県四日市市安島1-3-38 (近鉄「近鉄四日市」駅から徒歩約3分)

**参加者数** 30名

**参加対象** 英語科教員 都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校対象

**学校視察** 暁中学校・高等学校

(8日) プログラム：英語授業視察/視察校紹介/視察校実践発表/研究協議

**ワークショップ** **Ross Malcolm** ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

(9日) Learning vocabulary is often seen as a basic and boring activity. However, vocabulary is fundamental for language learning and underlies all five skills of reading, writing, listening, interactive speaking and spoken production. Building students' vocabulary is therefore a key task for teachers and learners. This session will look at the key issues involved in vocabulary learning and provide practical teaching ideas and techniques.

## 日 程

時刻	11		12		13		14		15		16	
		30		20	40	20	10	20	10	20		20
5月8日 (木)			受付	開 会 式	視察校 紹介 発表 ①		授業視察 (5限)		視察校 実践発表 ②		研究協議 ①	
時刻	9	10	11	12	13	14	15	16				
		30		30	30		30	15				
5月9日 (金)	Workshop Session1 (90分)		Workshop Session2 (120分)		昼食	Workshop Session3 (120分)		研究 協議 ②	閉 会 式			

○主催:一般財団法人日本私学教育研究所 ○後援:日本私立中学高等学校連合会

一般財団法人日本私学教育研究所

東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル 6階

電話 03(3222)1621 FAX 03(3222)1683 ホームページ <https://www.shigaku.or.jp/>



◆ 日 程 表 ◆

【1 日目】 5 月 8 日 (木)

〔会場 暁中学校・高等学校 オーロラホール〕

11:30-12:00	受 付 <オーロラホール>
12:00-12:20	開会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開会 ◇主催者挨拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 研修会運営方針説明 英語 5 技能教育特別委員長 ◇視察校代表挨拶 高木 達成 暁中学校・高等学校校長 日程説明 ◇閉式
12:20-12:40	視察校紹介 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 発表者 高木 達成 暁中学校・高等学校校長
12:40-13:00	視察校実践発表① 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 暁中学校・高等学校の英語教育について 発表者 島田 せつ 暁中学校・高等学校教諭 吉戸 昌和 暁中学校・高等学校教諭
13:20-14:10	授業視察(5 限) (1)2 年生 TT 上村 香 暁中学校・高等学校教諭 Matt Jones 暁中学校・高等学校教諭 (2)3 年生 READER 富永 尚 暁中学校・高等学校教諭
14:20-15:10	視察校実践発表② 〔会場 暁中学校・高等学校 管理棟 2 階 会議室〕 各コンテストや語学研修についての動画・説明 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 発表者 石川 理恵 暁中学校・高等学校教諭 澤田 真 暁中学校・高等学校教諭
15:20-16:20	研究協議① 〔会場 暁中学校・高等学校 管理棟 2 階 会議室〕 コーディネーター 佐藤 貴明 英語 5 技能教育特別委員 参加者同士での意見交換、視察校教諭への質疑応答を行った。

【2 日目】 5 月 9 日 (金)

〔会場 都ホテル 四日市 3 階 朝明の間〕

9:00-10:30	Workshop Session1 <English Refresher session for teachers> 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 講 師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
10:30-12:30	Workshop Session2 <Teaching Vocabulary: Part 1> 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 講 師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
12:30-13:30	昼 食
13:30-15:30	Workshop Session3 <Teaching Vocabulary: Part 2> 司会 佐々木 雄太 英語 5 技能教育特別委員 講 師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
15:30-16:00	研究協議② コーディネーター 佐藤 貴明 英語 5 技能教育特別委員 講師を交えて意見交換を行った。
16:00-16:15	閉会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開式 ◇総括・挨拶 佐藤 貴明 英語 5 技能教育特別委員 ◇閉会

◆ 講師プロフィール ◆ Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

ブリティッシュ・カウンシルは、過去 10 余年にわたり、日本の文部科学省や教育委員会等の教員研修の企画運営を担当し、英語教員研修トレーナーは全員 CELTA 及び DELTA 保持している（あるいは同等）。CELTA(Certificate in Teaching English to Speakers of Other Languages)、DELTA(Diploma in English Language Teaching to Adults)はいずれもケンブリッジ大学英語検定機構が授与する英語教授に関する国際資格。CELTA は、世界中にある TESOL/TEFL の資格の中でも、最も広く認められ高評価を受けており、知識・理論面と同様、実践面も重視。DELTA は英国の公的な資格・ 験監査機構 Ofqual によってレベル 7 (大学院修士号と同等資格) として認定。

◆ Workshop 概要 ◆

5月9日(金) Boosting students' English proficiency through attention to vocabulary

<b>Session 1</b> 9:00-10:30 (90分)	<b>English Refresher session for teachers</b> Teachers will take part in an English proficiency lesson as learners. The lesson will revolve around a challenging listening text on a contemporary topic. Teachers will experience a lesson with the following features: ・Taking both a top-down and bottom-up approach to listening comprehension ・Scaffolding and checks for understanding ・Focused, interactive discussions based on the topic ・Note-taking techniques to keep track of key information in longer listening texts.
<b>Session 2</b> 10:30-12:30 (120分)	・The importance of vocabulary ・The roles of teacher and student ・Introducing new words: sound, meaning and spelling ・Teaching the meaning ・Modelling the sound ・Teaching the spelling
<b>Session 3</b> 13:30-15:30 (120分)	・Teaching words in isolation ・Glossing words in a text ・Reviewing vocabulary through focused review tasks ・Reviewing vocabulary through language activities ・Consolidation
<b>Discussion</b> 15:30-16:00 (30分)	<b>Discussion (研究協議)</b> Opportunity for participants to discuss topics raised over the course of the training.

◆ 学校紹介 ◆ 学校法人暁学園＜理事長 喜岡 渉＞ 暁中学校・高等学校＜校長 高木達成＞

暁学園は 1946 年、日本の戦後復興に必要なのは女性高等教育の振興による女性の社会的地位向上であるとの信念の下、当時業界で全国有数のシェアを誇った平田紡績株式会社社長の宗村佐信初代理事長が、私財を投じて 社敷地内に県下初の私立女子専門学校「暁女子専門学校」を開校したことに始まる。1948 年には暁小学校・暁中学校を開校、1949 年には暁高等学校を開校した。1950 年には同校を暁学園短期大学に改組、1983 年には中学校を中高一貫教育体制へ、1993 年には少子化を見据えて高等学校を女子校から男女共学制に移行するなど発展的改革を続け、幼稚園から大学まで全 6 校園を擁する県下唯一かつ最大級の総合学園として、来年、学園創立 80 周年を迎える。建学の精神「学園綱領＜人間たれ＞」は、後に奈良女子大学学長に就任した五嶋孝吉学園長が 1951 年に提唱し制定、学園教育理念の根幹となる深淵な人間哲学である。中等教育においては、高い学力の形成とともに論理的思考、判断力、表現力を培い課題を主体的に解決する資質を身につけることを目標とした教育を実践している。

英語教育においては、令和 5 年度中学 1 年生から、英語の全授業のメイン教材として世界で高い評価を受け、広く使用されている、ケンブリッジ大学出版の洋書教材「Uncover」を導入した。三重県で初、東海地方においても極めて先進的な取り組みで、近年、増加傾向にある帰国生にも手ごたえのある教材であることも採用の大きな理由となった。10 年後の日本と世界の未来を見据え、「本物の英語力」を求め、教育研究と進化を続けている。教育の特色の一つに、グローバルな視点を育てる機会としての留学制度・海外語学研修の充実がある。オーストラリア、ニュージーランドの 2 か国に提携姉妹校のネットワークを持ち、多くの生徒たちが海外での生活を体験し、言語力だけでなく、国際理解力を高めてきた。その後、海外大学に進学した事例もある。また、姉妹校からの訪問団の来校など、在校生が日本にしながら国際理解を深められる環境を大切にしている。

◆ 会場案内 ◆

【1 日目：5 月 8 日(木)】暁中学校・高等学校

〒512-8538 三重県四日市市萱生町 238 三岐鉄道「暁学園前」駅から徒歩約 12 分

<https://www.akatsuki.ed.jp/akatsuki-jh/uniform/#commute>

【2 日目：5 月 9 日(金)】都ホテル 四日市

〒510-0075 三重県四日市市安島 1-3-38 近鉄「近鉄四日市駅」駅から徒歩約 3 分

<https://www.miyakohotels.ne.jp/yokkaichi/access/>



◆ 講師・発表者・指導員 (順不同)

Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

高木 達成 暁中学校・高等学校校長

吉戸 昌和 暁中学校・高等学校教諭

島田 せつ 暁中学校・高等学校教諭

石川 理恵 暁中学校・高等学校教諭

澤田 真 暁中学校・高等学校教諭

平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 特別委員・指導員 (順不同) ◆

平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

吉戸 昌和 暁中学校・高等学校教諭

佐藤 貴明 ドルトン東京学園中高等部教諭

佐々木 雄太 吉祥女子中学高等学校教諭

川端 真理子 多摩大学目黒中学高等学校教諭

高木 俊輔 聖光学院中学高等学校教諭

川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

## ◆ 概要 ◆

令和 7 年 5 月 8 日(木)～9 日(金)、暁中学校・高等学校及び都ホテル 四日市(三重県四日市市)において開催した。全国より英語科教員 30 名が参加し、初日は授業視察や高木達成・暁中学校・高等学校校長による学校紹介、同校教諭による実践発表、研究協議を行った。2 日目は Ross Malcom・ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修 트레이ナーによるワークショップを実施した。参加者は意欲的に研修に取り組み、当部会は成功裏に終了した。

### 5 月 8 日(木)

#### <開会式>

##### ○主催者挨拶・研修会運営方針説明(平方邦行 一般財団法人日本私学教育研究所所長/英語 5 技能教育特別委員長)

暁中学校・高等学校の皆様のご協力に御礼申し上げます。世界の教育は 20 世紀型の暗記中心教育から、創造性と問題解決力を重視する 21 世紀型教育へと移行している。現行の学習指導要領の枠を超えた「グローバル・アイデンティティ」「グローバル・コミュニケーション」「リベラルアーツ」の視点が不可欠だ。学校は成長し続ける組織を目指しながら、偏差値だけでなく海外大学進学等の新たな教育成果にも目を向けるべきだ。



##### ○視察校代表挨拶(高木達成 暁中学校・高等学校校長)

全国より参加頂いたこと、また学校としてもこのような機会に恵まれたことに感謝申し上げます。様々な研究発表会等に参加する機会はあるが、本校に来てもらい授業や生徒の様子をご覧頂くのはとても貴重な機会だ。参加者の皆様から忌憚のない意見を得られることこそが、次に進んでいくための栄養になると考えている。



#### <視察校紹介>

##### (高木達成 暁中学校・高等学校校長)

本校では中学校 225 名、高等学校 310 名の計 535 名が学んでいる。1946 年に平田紡績の社長を務めていた宗村佐信が創立し、来年 80 周年を迎える。「暁」という名前には「夜明け」「明け方」という意味が込められている。戦後の不安定な時代に、平和な国づくりのためには教育が重要で、特に女性の教養と社会的地位の向上が大切だという理念のもと創設され、三重県初の私立専門教育機関として女子教育からスタートし、発展してきた。

本校の学校綱領は「人間たれ」。高い学力や正義感に加えて、人を愛し、学問を愛し、美を愛する豊かな人間性を育てることを目指している。その 3 つの柱として「言語力」「理数力」「人間力」を育てていくためのプログラムを実践している。「言語力」については三重県で初めてケンブリッジ大学出版の英語教科書『Uncover』を導入し、発信力を育てている。留学や国際交流にも力を入れており、オーストラリアやニュージーランドからの留学生を受け入れて文化交流を行ったり、放課後に資格取得プログラムを設定したりしている。また様々なコンテストやコンクールに挑戦することで、生徒の自己表現力を育てている。体育祭では縦割りチーム編成で上級生・下級生が協力し合ってダンスや競技に取り組み、行事の後には全員で肩を組んで達成感を分かち合うような温かい交流がある。アントレプレナーシップ教育や学校独自のボランティア活動では文系・理系を問わず多様な活動を展開し、企業と連携した実践的な学びも提供している。



#### <視察校実践発表①>

##### (島田せつ 暁中学校・高等学校教諭、吉戸昌和 暁中学校・高等学校教諭)

中学校では令和 5 年度より教科書として『Uncover』(ケンブリッジ大学出版)シリーズを導入しており、未来を切り拓くグローバル人材として活躍する生徒を育てることを目標としている。その一環として、ニュージーランドやオーストラリアの姉妹校と提携して生徒の交流プログラムを行い、新たな挑戦の機会を提供することで未来を切り開く力を育てることを意図している。また学園綱領の「人間たれ」に基づいた英語教育として、上記の交流プログラムを通じて得られた経験をもとに、互いを尊重する心を育むだけでなく、『Uncover』の活用により教材を通して世界の文化に触れ、「美」について学ぶことができると考えている。



生徒の発信力育成のため、中学 2 年生から高校 2 年生が全員参加する行事として、各自の学びについて発信するアカデミックコンペティションを、中学 1 年生と中学 2 年生では学内での英語スピーチコンテストを行っている。『Uncover』は生徒の発話を自然に促す構成になっており、スピーキングだけでなく生徒間のインタラクション



が活発になった。映像では世界の文化や若者の姿を題材としており、知的好奇心がくすぐられる。魅力的な教材である一方、一般的な日本の英語教材とは異なるため、入試等で必要とされる英語力をどのように育てていくかに課題を感じている。主に①家庭学習の指示提案の仕方、②5 技能を意識したテスト作りについて、研究協議等で参加者の皆様から意見を頂きたい。

#### ＜授業視察(5 限)＞

中学 2、3 年生の英語授業を視察した。中学 2 年生では日本人教員とネイティブ教員による TT 形式での授業、中学 3 年生では Reader の授業が行われた。参加者からは「生徒が活き活きと授業に参加している様子が印象的だった」「Uncover の内容が興味深く、活用してみたい」等の感想が寄せられた。



#### ＜視察校実践発表②＞

(石川理恵 暁中学校・高等学校教諭、澤田真 暁中学校・高等学校教諭)

本校では、英語での発信力強化を目指し、学習内容をアウトプットする機会を多く設定している。学内独自のアカデミックコンペティションの一環として中学 1、2 年生を対象にスピーチコンテストを行っている。このスピーチコンテストでは英語科教員が題材を指定し、希望する生徒を対象に時間をかけてネイティブ教員を中心としたチームでトレーニングを行っている。



またライティング力向上のため、三重県教育委員会主催のワンペーパーコンテストに全員が参加している。三重県について興味のあるトピックを各自が選択して調査し、1 枚にまとめてプレゼンテーションを行うものである。応募作品を夏休み期間に制作し、校内で優秀作品に選抜された生徒は、生徒全体の前で発表する機会が設けられている。令和 6 年度に県の優秀賞を受賞した生徒のプレゼンテーションを実際にお聞き頂きたい。

海外研修については、当初は英語圏の語学学校にて行っていたが、提携している姉妹校との交流を行うようになり、英語学習を通じて人間関係を構築することに主眼を置くようになった。また 2014 年度からは「エンパワーメントプログラム」と称し、語学研修を「人生の転機」にするため、ハーバード大学の学生との交流等も行うようになった。帰国後の学習姿勢や進路意識にも変化が見られ、効果を感じている。今後はプログラムをさらに進化させ、より多様で実践的な国際交流の場を創出したいと考えている。

#### ＜研究協議＞

視察校実践発表①にて提示された英語教育における課題についてグループ・ディスカッションを行い、視察校教諭を交え活発に意見交換を行った。

#### 【①家庭学習の指示提案の仕方】

生徒は導入した『Uncover』に非常に積極的に学習に取り組んでくれている。一方、従来型のパターン・プラクティスや文法理解中心のテキストではないため、授業で学習した内容を本人の理解や問題演習に繋げることが難しい。音読を録音する等の課題を出しているが、それが直接、発信力につながるのか。良い課題の出し方について意見をもらいたい。

#### 【②5 技能を意識したテストづくり】

現状の定期試験では、授業内で取り扱った英文素材が中心であり、テキストで学習した表現・文法関連項目の確認や、作文等で自分の意見を書かせる問題を出題している。リスニングとスピーキングに関しては、定期試験外の授業内で実施している。定期試験において各技能の定着度を測るのに、初見の英文をどれくらいの割合で出題すべきか、どのような素材を用いるべきか迷っている。

#### 【参加者からの意見】

- ・ Microsoft Teams を用いた音読課題や、Google Classroom を用いた音読動画提出、発音矯正アプリ「ELSA for Schools」を活用した事例が共有された。
- ・ 初見の英文の出題について、学習したことを異なる文脈で運用できるかを測るために、Anthropic 社の生成 AI「Claude」を活用し、既習の英単語を含む英文を生成して活用する事例が共有された。
- ・ 英文法を定着させることを目的としたワークシートを掲載している「All Things Grammar」が紹介された。



5月9日(金)

## <Workshop>

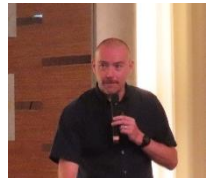
### <Boosting students' English proficiency through attention to vocabulary>

(Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー)

#### Session 1: English Refresher session for teachers

アイスブレイクとして自己紹介をした後、Fake news をトピックとしたリスニング教材を用い、listening comprehension の top-down approach と bottom-up approach を体験した。

ウォーミングアップとして、辞書に載っている各単語の発音が実際にどのように聞こえるか、音の違いについて気づくように促す活動を行った。特にストレスがあるものとなないものを確認することで、単語と単語の繋がりを生徒に意識させる。Listening part1 では前半はメモを取らず、聞くことに集中する。聞こえた単語をペアでシェアし、再度聞きなおした後にキーワードとなる語の意味を確認する。意味をある程度理解してから、本文の内容がどのようなものだったか、自分で考えてからペアでシェアする。同じ流れで Listening Part2 の内容整理をしてから、今回のトピックである circular reporting の例が身の回りにないか 4 人グループで意見を出し合い、その後全体で共有した。Listening part3 では How can we be sure that what we are reading online is true? の質問に自分の考えを述べた後、3 つ目のテキストの内容理解を行い、スクリプトを見ながら main idea → simple overview → supporting detail → simple summary で英文が構成されていることを理解し、同じフレーズを使いながら、最初の質問に対して自分の考えをまとめる練習を行った。全体を通して、まずは自分で考える時間を作ってからペアでシェアすることを徹底していた。



#### Session 2: Teaching Vocabulary: Part 1

“Without grammar very little can be conveyed, without vocabulary nothing can be conveyed.”(Wilkins)とあるように語彙指導は非常に重要だ。負担ではなく花の水やりと同じような日課として捉えるため、生徒と教師はどのような役割を果たすべきか。教師の役割としては、Show enthusiasm for learning new words and phrases. Explicitly teach new vocabulary in lessons. Review new words and phrases regularly. の 3 つがある。講師のデモンストレーションを見てから、生徒役と教師役に分かれてロールプレイを行い、正しい定義を選ぶ指導法の練習を行った。参加者からは抽象名詞を指導する時に日本語を使用してもいいかという質問があり、講師からは生徒の様子を見て臨機応変に日本語で定義しても良いという回答があった。

続いてリーディング教材を使った語彙指導について講師がデモンストレーションした。テキストを読む前に導入する単語と、テキストを読みながら導入する単語をあらかじめ教師が決め、キーワードのみ導入する際は文字と音の関係に注目させ、同じような発音をする他の単語もなるべく多く提示する。熟語に関しては例文を見せ、音節にも注目を持たせる。導入したら終わりにせず、導入した語を覚えているかどうかの確認を行ってからテキストを読み始める。教師が音読する時には生徒は指でセンテンスを追い、教師の合図で顔を上げて定義について説明を聞く。テキストを読みながら導入する語彙についてこの流れを繰り返し、最後に内容理解の問題を解き、答えを確認したら、新出単語 やトピックについて振り返りを行う、という流れを学んだ。教師が音読をしながら未習の単語について短い説明をする活動を glossing と呼ぶが、その方法やメリットを学んだ。その後参加者はテキストの同じ単語で自分なりの glossing のやり方を考えて、ペアでシェアをした。

#### Session 3: Teaching Vocabulary: Part 2

語彙指導では meaning-sound-spelling の 3 つが結びつかないと効果がないことを最初に学んだ。その後 sound と meaning をリンクさせた講師のデモンストレーションをまずはペアで練習した。その後別の単語を使ってどのような方法で教えるか参加者個人で考え披露した。次にスペリング指導のデモンストレーションを見て、参加者同士で練習を行った。

発音練習では同じスペルで同じ音になることを定着させるために他の単語を示す必要があるが、Spelfabet site のサイトを利用することも勧められた。短期記憶から長期記憶に移行するためにテストの効果は高いが、review tasks には様々な種類があり、最も効果的なものはどれかについて考えた。

#### Discussion: Discussion (研究協議)

グループで振り返りを行い、本日の気づきや学びについて共有した。また、普段の授業で自分が抱えている疑問等も共有した。



## ＜閉会式＞

### ○挨拶（宗村昌子 学校法人暁学園常務理事）

意義のある研修会を本校で開催させて頂いた貴重な機会に感謝している。活発な研究協議の様子をととても嬉しく拝見した。英語教育はとても重要で、私自身大きなプレッシャーと期待を抱いている。このような研修の機会が今後も継続的に提供されることを願っている。



### ○総括（佐藤貴明 英語5技能教育特別委員）

研修会の空間は非日常だったが、これから学校に戻って日常へと帰る。普段は教員目線ばかり意識しがちだが、今回の研修を通して学習者目線を得られたのではないかな。研修会に参加できるのは同僚や家族の支援があつてのこと。感謝の気持ちは大切にしてもらいたい。学校の状況はそれぞれ違い、他校の先生との交流から多くの学びを得ることができる。出合いを大切に今後も協力しながら、英語教育・国際教育の発展に取り組んでいきたい。



## ◆ 都道府県別参加者数 ◆

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	2	13	千葉	0	25	滋賀	0	37	香川	0
2	青森	0	14	神奈川	0	26	京都	3	38	愛媛	0
3	岩手	0	15	東京	2	27	大阪	2	39	高知	0
4	宮城	0	16	富山	0	28	兵庫	0	40	福岡	5
5	秋田	0	17	石川	1	29	奈良	4	41	佐賀	0
6	山形	0	18	福井	0	30	和歌山	0	42	長崎	0
7	福島	0	19	山梨	0	31	鳥取	0	43	熊本	0
8	新潟	0	20	長野	0	32	島根	0	44	大分	0
9	茨城	0	21	岐阜	2	33	岡山	0	45	宮崎	0
10	栃木	0	22	静岡	0	34	広島	3	46	鹿児島	0
11	群馬	0	23	愛知	1	35	山口	0	47	沖縄	0
12	埼玉	0	24	三重	5	36	徳島	0	計 11 都道府県 30 名		

## ◆ 参加者アンケート ◆

- ・ 回答数：11／参加者数 30 名＜回答率 33%＞
- ・ 内オンラインフォーム回答数：3＜利用率 27%＞

### ○視察校紹介について

- ・ 国際社会で活躍できるグローバル人材育成のための様々な取り組みが参考になった。
- ・ 学校が教育、特に英語に対して本気で取り組んでいると感じた。

### ○視察校実践発表①について

- ・ Uncover が導入され、全体で取り組んでいる様子がよく分かった。
- ・ 課題の共有等、考える機会があつたので勉強になった。

### ○授業視察について

- ・ 目指す英語教育のお手本を見せて頂けたと思った。
- ・ All English の中で柔軟に日本語を使っており、とても分かりやすかった。

### ○視察校実践発表②について

- ・ 実際に生徒のスピーチを見ることができて良かった。
- ・ 英語教育が他の活動とも融合していて、参考にしたいところが多かった。

### ○研究協議(1日目・2日目)について

- ・ とても勉強になる有意義な時間だった。
- ・ 他校の先生方が活用されているツールを知り、ぜひ取り入れたいと思った。

### ○Workshop について

- ・ 授業を受ける側になったことで、授業をどのように進めるか改めて考えることができた。
- ・ 自分なりに落とし込みながら、試してみたいと思う活動が多くあった。